

授業科目	看護研究演習			実務家教員担当科目	○
単位	3.	履修	選択	開講年次	4
開講時期	通年				
担当教員	目野 郁子				
授業概要	既習の知識・技術、理論や臨地実習の経験を基に、自ら看護に関する研究テーマを設定する。文献検討を深めて研究計画を作成し、研究方法、論文作成、研究発表等 演習を通して一連の研究活動の基本を学ぶ。				
授業形態	個別指導・グループ指導(学生は主体的に学習活動に取り組む)		授業方法		
学生が達成すべき行動目標					
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識・技術、理論、臨地実習の経験を基に、各指導教員とディスカッションしながら看護に関する研究テーマを設定できる。(DP2-1.4-2.4-3)</li> <li>2. 研究テーマにおける問題解決や仮説を検証するために、倫理的配慮に基づく研究計画を作成できる。(DP2-1.4-2)</li> <li>3. 研究計画に基づいて、調査研究や実験等を実施できる。(DP2-1.4-2)</li> <li>4. 得られたデータの解析処理を経て、論文を作成できる。(DP2-1.4-3)</li> <li>5. 研究のプレゼンテーションができる。(DP4-2)</li> </ol>				
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識・技術、理論、臨地実習の経験を基に、指導教員とディスカッションしながら看護に関する研究テーマを設定できる。</li> <li>2. 研究テーマの中の問題解決や仮説を検証するために、倫理的配慮に基づく研究計画を作成できる。</li> <li>3. 研究計画に基づいて、調査研究や実験等を実施できる。</li> <li>4. 得られたデータの解析処理を経て、論文を作成できる。</li> <li>5. 研究のプレゼンテーションができる。</li> </ol>				
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら問題意識を持ち積極的な姿勢で、一連の研究過程(行動目標 1-5)に取り組む。また、研究過程においては、倫理的配慮に留意し、研究対象者の権利についても考えることができる。</li> <li>2. 論文作成のルールや技術を学び、指導教員の指導を受け、よりよき論文作成・発表に向け、文献検索や修正をいとわず、意欲的に行動し、完成度の高い論文をめざして努力することができる。</li> <li>3. 発表抄録を作成し、効果的でわかりやすい発表となるよう、工夫することができる。</li> </ol>				
評価方法・評価割合					
評価方法	評価割合(数値)			備考	
試験					
小テスト					
レポート	70%				
発表(口頭、プレゼンテーション)	10%				
レポート外の提出物	20%				
その他					
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング					

DP1	-	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU31406J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
各担当教員より指示する。										1	
授業計画											
第1回	<p>1. オリエンテーション 看護研究演習のねらい、授業概要、到達目標、研究過程、評価等を説明する。</p> <p>2. 研究における倫理的配慮、論文作成のルールや技術、文献検索等について各指導教員からレクチャーを受ける。</p> <p>3. 学生は教員の指導・助言を受けながら、主体的に、倫理的配慮に基づく一連の研究過程に取り組む。</p>										
テキスト	特になし。必要に応じて文献等を紹介する。										
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じ、担当教員が紹介する。										
課題に対するフィードバックの方法	課題達成については個別にフィードバックします。										
学生へのメッセージ・コメント	<p>既習の看護研究で使用した資料等を確認し、復習しておくこと。</p> <p>レポートについては、関連する先行研究等を読み込み、倫理的配慮を行ったうえで、客観的・科学的に考察をすること。</p> <p>割り振られた時間内に限らず、指導教員と調整を図りながら自主的に研究に参加し、積極的に課題に取り組むこと。</p>										